

社専だより

第59号 2017(平成29)年8月28日

編集・発行：上智社会福祉専門学校

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL 03(3238)3021

ホームページアドレス <http://www.sophia-sw.jp>



～第59号の主な内容～

- 〈1面〉 保育士科の学生募集停止と廃科について
- 〈2面〉 社専アーカイブス
- 〈3面〉 社専ソフィア会
- 〈4面〉 子育て支援、
教員リレーコラム、他

保育士科の学生募集停止と廃科について

上智社会福祉専門学校 高山貞美

上智社会福祉専門学校は、二〇一七年六月二日に、標記に関するお知らせを公式ホームページ上において発表しました。その内容は以下の通りです。

「上智社会福祉専門学校保育士科は、一九六六年に上智社会福祉専修学校保母養成機関として設立され、以来、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育と共に、五〇余年にわたり保育人材の養成を行ってまいりました。

しかしながら、近年の社会時勢を鑑み、検討を重ねてまいりました結果、本科は既にその使命を終えたものとの結論に至りました。

これにより、本校保育士科は二〇一八年度以降の学生募集を停止することとし、また、二〇一七年度入学生の卒業予定とされる二〇一九年度末をもって閉科(予定)することといたしました。

なお、介護福祉士科、社会福祉士・児童指導員科、精神保健福祉士通信課程(短期)につきましても、引き続き募集を実施してまいります。

これまで本校の保育人材養成の運営を支えてくださった



皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げますとともに、今後とも皆様からの温かいご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。」

このように、保育士科が学生募集の停止を決定するに至った背景には、夜間の保育士養成課程として歩んできた本学科が、近年の慢性的な入学者の減少に直面し、厚生労働省が定める指定基準を満たしながら安定的な経営状態を維持していくことが困難となったためです。

上記のお知らせの文章にありますように、専修学校として上智社会福祉専門学校が認可された最も古い時期から、上智学院の社会福祉実践教育の根幹として位置付けられてきた学科であることから、今回の決定は、上智学院としても、まさに苦渋の決断であったと言えます。

しかしながら、保育士科の卒業生は、子どもと子どもを取り巻く人々を支援する社会福祉のマンパワーとして、現在も、そしてこれからも、ますます、その力を発揮してくるはずですし、現役の保育士科学生は、今後の保育サービスの中核を担う人材となるべく、毎日の授業や保育実習、子育て支援活動等による学びを真摯に蓄積し続けています。

上智社会福祉専門学校は、これら学生の学びや卒業生の実践を、最大限、大切にしながら、他の学科や課程による連携をさらに強めながら、学校としてのミッションを果たしていきたいと考えています。

今後とも、学生と卒業生、専任及び非常勤教員、実習施設と関係諸機関の方々に、ご厚情とご協力をいただきたく衷心より願う次第です。

上智社専卒業生と現役学生による保育の展望

保育士科長 江藤久良良

保育士科の学生募集停止が決定した現在、これまで保育士養成課程として多くの実践者を送り出してきた上智社会福祉専門学校において、改めて、卒業生と現役の学生が、これからの保育の展望を共有する機会が求められています。

例年と同様に、今年度も六月頃から社専ソフィア会の年次総会とその講演会の内容が検討されていましたが、その会議の過程で、保育の分野で活躍する卒業生の声が発信されるのが、今こそ重要だという意見が出されました。そして、それら卒業生の実践が現役の学生に向けて語られることにより、これからの社会で保育士が必要とされ、社会

における存在意義を具体的にイメージできる、そのような場が必要である、という意識が共有されていきました。そして、別紙のお知らせに詳細がありますが、九月三日(土)に行われる二〇一七年度の社専ソフィア会の総会／講演会は、社専卒業生や関係者による保育の展望に関するシンポジウムとして実施されることとなりました。社会福祉を学ぶ学生と実践者が、異なる専門領域やそれぞれの立場を超えて集い、これからの社会における子供の育ちと子育てを支援する実践のあり方を考える貴重な機会となるはずです。是非とも、四谷キャンパスでお会いしましょう。

〈訃報〉

ハイメ・カスターニエダ先生

二〇一七年一月二二日、本学元校長であり、元上智短期大学長、上智大学名誉教授(元文学部教授)のハイメ・フェルナンデス・カスターニエダ神父が、ご病氣(腸閉塞)のため、帰天されました。

先生は、一九三一年にお生まれになり、一九六〇年に上智大学外国語部の講師に就任されました。本学の校長となられたのは一九八九年のことで、六代目の校長として六年間お務めになりました。その間にも、介護福祉士の開設にもご尽力されました。二〇一〇年には端室小経賞を受賞されています。



～社専アーカイブス～



創立50周年(2013年)を機に、昔の写真資料で社専の歴史を振り返るシリーズの最終回です。

2000年代に入り、介護保険法施行を始めとした社会福祉の大きな転換がありました。その影響を受けた社専でも、社会福祉主事科の廃科、精神保健福祉士通信課程の開設などいくつかの大きな変革があり、その流れは今日まで続いています。

今回は、2000年から2009年までの出来事から選んで掲載しました。



〈写真説明〉

- 1 2002年2月2日開催、ハビエル・ガラルダ第4代校長、ハイメ・カスタニエダ第6代校長、井上英治第5代・7代校長の「最終講義と感謝の集い」の1コマ
- 2 同年3月の卒業式。社会福祉主事科の、最終年度の卒業記念写真
- 3 2005年10月、解体前の上智会館
- 4 同、上智会館から大学1号館に移転した社専事務室
- 5 2006年9月、「菅沼ケイ先生を囲む会」。解体される旧6号館教室を、社専で使用した最後の催し
- 6 2009年11月、「創立50周年に向けての特別講演と親睦会」開催。講師の松本栄二先生を囲んで



卒業生が利用できるサービスについて

上智大学の卒業生向けサービスを紹介いたします。大学、短大卒業生と同様に、社専卒業生も利用できます。

◎上智大学図書館の当日利用
卒業生は、図書館(中央図書館・石神井分館・目白聖母キャンパス図書室・短期大学部図書館)の、当日利用ができます。
レファレンスカウンターで申込書に必要事項を記入して申し込んでください。氏名の確認できる書類の提示も必要です。卒業生であることを確認した後、当日利用券が発行されます。

◎公開講座の受講料割引
卒業生は、公開講座(ソフィア・コミュニティ・カレッジ)を、割引料金で受講できます。割引率は卒業後の年数により異なります。卒業後十四年までは一割引、十五年からは三割引、二十五年からは五割引となり、卒業五十年以降は十割引(無料)で受講できます。
お問合せ・資料請求先：上智大学公開学習センター
(TEL) 〇三―三二―三八―三五五二

社専ソフィア会

事務局 TEL&FAX : 03 - 3238 - 3027

E-mail : syasensophiakai @ honey.ocn.ne.jp

伝言板

お読みください。

◆「クラス会等サポート事業」のご案内
この事業は、会員が同期会、クラス会等を開催する際に、開催通知などの発送と印刷・郵送費の補助を行うものです。近年は個人情報保護法との関係で会員名簿の作成ができないため、代替として二〇〇六年度より事業開始しました。

同期会やクラス会開催をお考えの皆様、ぜひご利用ください。
ご利用案内と申込書は、社専ソフィア会ホームページからダウンロードできます。
「社専ホームページ」→「卒業生の方へ」→「社専ソフィア会」→「クラス会等サポート事業」
HPからの入手が困難な場合は、資料をFAXまたは郵送でお送りしますので、社専ソフィア会事務局までご請求ください。

お、勧誘や営利目的でのご利用は、お断りします。
○社専だよりは年二回程度の発行のため、お申込みいただいてから掲載までに時間がかかります。ご了承ください。
○掲載後のご連絡は、直接当事務者間でお願います。掲載された内容について、社専ソフィア会事務局、および社専事務センターにお問合せ等いただいても、対応は致しかねます。

◆「伝言板」の掲載について
伝言板は随時掲載しますので、ご希望がありましたら、以下の内容をご確認の上、社専ソフィア会事務局までお申込みください。
○伝言の内容は、会員(社専卒業生)同士の連絡や告知に限らせていただきます。な

◆「伝言板」の掲載について
最終会員の方、会費免除の手続きをされている方以外には、会費納入用紙をお送りしています。同封の用紙、または郵便局に備付の振替用紙でお支払いください。会費は年額二〇〇〇円です。
終身会費および会費免除については、同封用紙の説明を

2017年度総会を開催します

開催日 9月30日(土)
場所 上智大学12号館102室(予定)
時間 12:30~13:00 2017年度総会
13:00~14:30 卒業生シンポジウム

今年度の講演会は、保育士(保母)科を中心とした卒業生による、シンポジウムとして開催します。テーマは、社専での学びと保育の未来に関するものです。また、昨年度と同様に「レンコンミーティング2017」と同会場で開催しますので、総会以外の催しにもぜひご参加ください。合同での懇親会も企画中です。
詳しくは、同封の「2017年度総会のお知らせ」をご覧ください。

◆過去の情報を募集します
第五〇号から連載の「社専アーカイブス」は今号で終了しましたが、今後も機会がありましたら、「昔の社専」を紙面に掲載したいと思っております。
過去の資料や紹介したいエピソードなどをお持ちの方は、社専ソフィア会事務局までご連絡ください。

◆お問合せ・ご連絡について
事務局へのお問合せは、できればメールでお願いいたします。会費納入総額を教えてください。納入用紙に記載される場合も、メールアドレスまたはFAX番号を併記していただく、お返事がしやすくなります。よろしくお願いたします。

◆過去の情報を募集します
第五〇号から連載の「社専アーカイブス」は今号で終了しましたが、今後も機会があ

お知らせ

◆会費納入のお願い
最終会員の方、会費免除の手続きをされている方以外には、会費納入用紙をお送りしています。同封の用紙、または郵便局に備付の振替用紙でお支払いください。会費は年額二〇〇〇円です。
終身会費および会費免除については、同封用紙の説明を

◆「伝言板」の掲載について
伝言板は随時掲載しますので、ご希望がありましたら、以下の内容をご確認の上、社専ソフィア会事務局までお申込みください。
○伝言の内容は、会員(社専卒業生)同士の連絡や告知に限らせていただきます。な

教員リレーコラム ⑥

高橋 恵梨香

この度、教員コラム番外編と称し、記事を担当させて頂きま
す職員です。よろしくお願ひいたします。

社会人になってから、驚くほど沢山の出会いに恵まれました。
出稼ぎのため異国の地にやってきたトルコ人、宇宙飛行士を
目指してパイロット養成の学科に通う大学生など、学生時代の
自分からは想像できないような、本当に様々な人達と巡り会い
ました。

中でも一人の日本人女性との出会いは印象的でした。
私が出合った時、彼女はバックパッカーとして、世界を巡っ
ている最中でした。元々は職を辞めて気が済むまで世界を旅す
る予定だったそうですが、職場との話し合いの末、約一年間の
休職という形で落着いたそうです。

正直かなり大胆な行動と感じましたが、彼女からしてみれば、

やりたいことを我慢することのほうがよっぽど不思議なこと
のように思いました。ここに至るまで、似たようなやり取りを繰り返
してきたようで、自分には出来ないという言葉に耳に肌（た）が
刺さるほど聞いたそうです。ただ大抵の場合、やらないことを出来
ないと言っているだけなんだよね、と言っていました。耳が痛
い話でした。

彼女の言ったことは間違いではないと思いますが、事の大小
となく、やりたいことを実現するために行動を起こすことは簡
単なようで、実はとても難しいように感じます。その点、社專
生は比較的行動力のある方が多い印象を受けます。それぞれが
何かしらの信念や目的をもって社会福祉の世界に足を踏み入れ
てきているからかもしれません。

一歩を踏み出すことを知っていることは学生生活を送る上で
も、社会で活躍していく上でも大きな強みとなると思います。
実践の場で活躍する社專生の話を教員を通して耳にする度、そ
の思いはますます強いものとなります。

第九回子育て支援 感想

保育士科3年 山口 稜弘

学生主体で子育て支援を経
験できることは非常に幸せに
感じている。保育士科の有志
と先生方で作りあげた子育て
支援は三年目を迎えた。基本
的に学生が内容やプログラム
を考え、先生方に指導しても
らうという流れで毎回やらせ
てもらっている。学生が何を
やるのか考え、親子の前で実
践するという事は他では経験
できない学びがある。

今回の子育て支援は一年生
の初めての子育て支援となっ
た。その為三年生、二年生が
中心になり、一年生には今後

の子育て支援の為に見てもら
うことを重視した。しかし一
年生の中には非常に積極的に
参加して下さる方も多くいて、
三学年合同でやったと思える
子育て支援であった。新たな
メンバーである一年生の今後
の活躍から学ぶことが非常に
楽しみになった。

今回は司会をやった以来の
台本のある役割であったが、
参加者を楽しませることは台
本に沿ったものを読むという
事ではできないと感じた。参
加者の存在があつてこそ楽し
ませる振る舞い方は決まると
思った。参加者が楽しいこと
が一番であると改めて感じた
子育て支援であった。



2017年7月15日 四谷キャンパス 6-302 教室にて
(学生による手遊びの場面)

「上智コンコンミーティング2017」の告知の中

一昨年より、上智学院教職
協働・職員協働イノベーション
ン研究の一環として、社会福
祉専門学校の教員と学院の職
員の有志メンバーによる「上
智レンコンプロジェクト」が
開催されています。

このプロジェクトは、社会
福祉分野で学ぶ学生が、地域
住民や卒業生を含めた福祉の
専門職と協働することで、通
常の授業では学ぶことのでき
ない体験を蓄積していく試み
です。今年度は、子育て支援
活動、職能団体とのコラボレ
ーション、卒業生との協働、地
域住民の活動への参加(コミュ
ニティカフェ等)などが、上
半期をメインとして行われて
います。

それらのまとめとして四谷
キャンパスに関係の方々や学
生が集い、学びを共有し、今
後にむけて連携を深めていき
ます。当日は、参加した学生
に本プロジェクト修了者の意
味を込めた「レンコンマイス
ター」を授与します。また、
本誌一面で紹介されている保
育の展望をテーマとした社專
ソフィア会によるシンポジウ
ムも含まれています。是非と
も、新しい連携や交流のきっ
かけとして、また、専門学校

を通じたつながりを深め、今
後のそれぞれの実践に生かす
機会として、四谷キャンパス
一二号館にお越しいただけ
ば幸いです。どうぞお気軽に
お越しください。(担当:三浦)

上智レンコンミーティング
2017
日時:二〇一七年九月三〇
日(土) 一〇時~一七時
(時間内の出入りは自由で
す)

会場:上智大学四谷キャン
パス一二号館

参加費:無料(どなたでも
お気軽にお越しください)

詳細:ホームページにて具
体的な内容は順次掲載して
いきます。参照ください。
(www.carafes@jindo.
co.jp)

